

Title	表紙・目次・投稿規定等
Author(s)	
Citation	弘前大学教養教育開発実践ジャーナル, 1, 表紙・目次等, 2017
Issue Date	2017-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10129/6118
Rights	
Text version	publ isher



<http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/>

論文

- | | | |
|--|------------------------------|----|
| 1) The Flipped Classroom, Two Classes in One | バーマン シャーリー ジョイ | 1 |
| 2) The Role of Images in ELT Textbooks:
A Case for Visual Metaphors | バードセール ブライアン ジョン | 9 |
| 3) An Alternative Framework for Teaching Local Studies:
Local Literature as Literature of Place | ソロモン ジョシュア | 19 |
| 4) 教養教育英語科目におけるポートフォリオの活用:
ヨーロッパ言語ポートフォリオの応用可能性 | 立田夏子 | 31 |
| 5) 語彙サイズテストによるプレイスメントの試み | 横内裕一郎 | 43 |
| 6) 大正期高等教育機関における教養教育に関する考察
—弘前高等学校・秋田鉱山専門学校・盛岡高等農林学校の比較から— | 小暮克哉, 石原朗子, 前田 剛, 上野玲子 | 53 |
| 7) 放射線専攻学生を対象とした放射線シミュレーションの教育的有効性の検討 | 松谷秀哉, 門前 暁, 細田正洋, 柏倉幾郎, 加藤博之 | 65 |
| 8) 共育型地域インターンシップのモデル構築
—田舎館村における事例研究を通して— | 西村君平, 工藤裕介, 小寺将太 | 71 |
| 9) 学生提案型地域プロジェクト学修の構想
—学生主体の教育実践のマネジメントの可能性— | 畠山裕将, 会津瑞希, 西村君平 | 85 |
| 10) 地方創生と学生の地元就職 | 小磯重隆 | 97 |

実践報告

- | | | |
|--|------|-----|
| 1) 弘前大学はやぶさカレッジの3年間を振り返って | 多田恵実 | 109 |
| 2) 英語Speakingの実践
—ICTを活用して学生のモニタリングスキルを高める— | 佐藤 剛 | 119 |

発刊によせて

弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター長

小 岩 直 人

弘前大学は、高い教養と幅広い知識を有し、自ら課題を探求して判断する能力を有する自律的な社会人として、国内外で先導的に活躍する人材を育成することを教育の目標としています（カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）。この目標達成のため、教養教育においても平成28年度にカリキュラム改革が行われ、①主体的・能動的学習への転換、②文理融合型教育による多角的な視点や思考法の獲得、③国際共通語としての英語能力の獲得、④地域志向性（地域がもつ強みや課題の理解、課題解決への意欲等）の涵養、⑤国際性（異文化理解、多文化共生等）の涵養を目指したカリキュラムへと大幅な変更をいたしました。これに伴って教養教育の実施運営の組織も、これまでの21世紀教育センターから教養教育開発実践センターへ改組されました。

これらの改組、カリキュラム改革に伴い、この度、旧組織で刊行していた「21世紀教育フォーラム」を発展させた「教養教育開発実践ジャーナル」を新たに発刊することとなりました。本ジャーナルは、高等教育に関する実践的・学術的研究の成果を公表することを目的に刊行するものであります。

平成24年8月の文科省の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」において「主体的な学習を促す学士課程教育への転換」が求められており、本大学における教育改革も、この答申を受けてのものとなっています。近年の学生は、与えられた課題に関しては能力を十分に発揮できるのに、課題を自ら見つけ出し、解決法を考え、周囲の人間に言葉で伝えるということが極めて苦手である人が増えていると感じているのは私だけではないと思います。この原因を的確に述べることは、浅学の私には到底できませんが、教育環境、社会情勢等がめまぐるしく変化し、また、学生自体も大きく変化している中で高等教育を実践しなければならない時代であると思います。そのような変化をしっかりと受け止めながら、高等教育における様々な実践の試行錯誤を繰り返し、教育の質の向上を図ることが必要不可欠かと覆います。今後、みなさまからの多数の投稿があり、本ジャーナルが高等教育に関する活発な議論をしていただく場になることを切に願い、巻頭の挨拶とさせていただきます。

目 次

発刊によせて…………… 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター長 小 岩 直 人

論 文

- 1) The Flipped Classroom, Two Classes in One
…………… バーマン シャーリー ジョイ 1
- 2) The Role of Images in ELT Textbooks: A Case for Visual Metaphors
…………… バードセール ブライアン ジョン 9
- 3) An Alternative Framework for Teaching Local Studies:
Local Literature as Literature of Place …………… ソロモン ジョシュア 19
- 4) 教養教育英語科目におけるポートフォリオの活用：
ヨーロッパ言語ポートフォリオの応用可能性 …………… 立 田 夏 子 31
- 5) 語彙サイズテストによるプレイメントの試み …………… 横 内 裕一郎 43
- 6) 大正期高等教育機関における教養教育に関する考察
—弘前高等学校・秋田鉱山専門学校・盛岡高等農林学校の比較から—
…………… 小 暮 克 哉, 石 原 朗 子, 前 田 剛
上 野 玲 子 53
- 7) 放射線専攻学生を対象とした放射線シミュレーションの教育的有効性の検討
…………… 松 谷 秀 哉, 門 前 暁, 細 田 正 洋
柏 倉 幾 郎, 加 藤 博 之 65
- 8) 共育型地域インターンシップのモデル構築
—田舎館村における事例研究を通して—
…………… 西 村 君 平, 工 藤 裕 介, 小 寺 将 太 71
- 9) 学生提案型地域プロジェクト学修の構想
—学生主体の教育実践のマネジメントの可能性—
…………… 畠 山 裕 将, 会 津 瑞 希, 西 村 君 平 85
- 10) 地方創生と学生の地元就職 …………… 小 磯 重 隆 97

実践報告

- 1) 弘前大学はやぶさカレッジの3年間で振り返って …………… 多 田 恵 実 109
- 2) 英語Speakingの実践 —ICTを活用して学生のモニタリングスキルを高める—
…………… 佐 藤 剛 119

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」投稿要項

1. 「教養教育開発実践ジャーナル」は、高等教育に関する実践的・学術的研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 発行は原則として年1回、3月末とする。
3. 原稿の締切は概ね12月中旬とする。
4. 「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載する原稿は、次に掲げる(1)～(4)に属するものとし、掲載の可否は編集委員会が判断する。ただし、(1)論文については査読審査を経たものに限る。
 - (1) 論文：教養教育に関する論文
 - (2) 実践報告：教養教育に関する実践報告
 - (3) 書評：教養教育に関する著書の書評
 - (4) その他
5. 論文は、和文（横書・縦書）又は英文を原則とする。
6. 論文は、和文20,000字以内、英文6,000語以内を目安とする。
7. 原稿の作成に際しては所定の執筆要項（別掲）に従うものとする。
8. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
9. 別刷を希望する場合、経費は著者負担とする。
10. 「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載された論文等の著作権及び電子化の権利については、以下のとおりとする。
 - (1) 掲載された論文等の著作権は、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）に帰属する。
 - (2) 当該論文等について、執筆者本人が学術教育目的等で使用する場合（執筆者自身による著作編集物への転載、掲載、ネット配信、外国語への翻訳、配布等）、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）は無条件で許諾する。
 - (3) 掲載された論文等は電子化し、原則としてHP、弘前大学リポジトリ等で公開する。
11. 投稿原稿は他誌に未発表のものに限る。

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」執筆要項

1. 原稿は原則として電子ファイルで作製し、メディア（CD-R、USBメモリ等）に記録して提出して下さい。この際、電子ファイルを印刷したものに後述の指定事項を記入した紙原稿を添えて下さい。なお、電子ファイルは、PDF、EPS、一太郎、Word、Excel、PowerPoint、TIFF等の一般的なファイル形式として下さい。（TEX,LATEX等の組版原稿には対応できません。）
2. 図表(写真を含む。)はなるべく少数にとどめ、各図表ごとに電子ファイルを一般的な形式で作成し、原稿の電子ファイルと併せて提出して下さい。（作図イメージに近い刷り上がりとするためには、論文として印刷される大きさで作ったPDFファイルをお勧めします。）なお、写真データの解像度は原則300dpi以上として下さい。図表は白黒の刷り上がりになります。
3. 原稿の電子ファイルに図表を配置しない場合は、紙原稿に図表の挿入箇所を明示して下さい。
4. 原稿の書式は、次のとおりとします。

(1) 和文原稿

横書きの場合はA4判・1段組、48字×42行を標準とし、フォントサイズは10ポイントを原則とします。縦書きの場合は、A4判・2段組、33字×27行を標準とし、フォントサイズは10ポイントを原則とします。

(2) 英文原稿

A4判・1段組、シングルスペースで38字×45行を標準とし、フォントはTimes New Roman、フォントサイズは12ポイントを原則とします。

5. 原稿には論文題名、著者名及び所属を和英両語で記載して下さい。
6. 本文の前に要旨（Abstract）及びキーワードを置いて下さい。要旨は、和文の場合は400字以内、英文の場合は200語以内とし、キーワードは数語以内として下さい。
7. 参考文献は本文末尾に一括して記載して下さい。なお、参考文献の書き方については、以下を参考にして下さい。

〈例〉

Foster, P., Tonkyn, A., & Wigglesworth, G. (2000). Measuring spoken language: A unit for all reasons. *Applied Linguistics*, 21, 354-375.

Klingner, J. K. (2004). Assessing reading comprehension. *Assessment for effective intervention*, 29, 59-70.

Tavakoli, P., & Skehan, P. (2005). Strategic planning, task structure, and performance testing. In R. Ellis (Ed). *Planning and task performance in a second language* (pp.239-273). Amsterdam: John Benjamins.

齊田智里・有田由紀子 (2010). 「大学英語教育における評価システムの構築—学力評価とプログラム評価の観点から」『全国英語教育学会紀要 ARELE』 21, 241-250.

松沢伸二 (2002). 『英語教師のための新しい評価法』 東京：大修館書店

文部科学省初等中等教育局. (2013). 『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引』 Retrieved from http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1332306_4.pdf

8. 特別に指定したい事項（書体、図表の大きさや挿入箇所など）は、その該当箇所及び指示内容を紙原稿内に朱書するなどして明示して下さい。
9. 原稿の提出に際しては、所定の「投稿申込用紙」に必要事項を記載のうえ、添付して下さい。

教養教育開発実践センター編集委員会

編集委員長	渡 辺 麻里子 (人文社会科学部)
編集委員	岡 本 浩 (大学院理工学研究科)
	中 村 裕 昭 (教育推進機構 教養教育開発実践センター)
	横 内 裕一郎 (教育推進機構 教養教育開発実践センター)

編 集 後 記

この度、『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』の創刊号を発刊することができました。この雑誌は、弘前大学21世紀教育センターの組織変更を機に、これまでの『21世紀教育フォーラム』に替わり、内容も形も変えて新しい雑誌としたものです。

『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』は、高等教育に関する実践的・学術的研究を促進し、「教養教育」の改善に資することを目的としています。今号は、創刊号にふさわしく、3本の英文の論文を含む10本の論文と、2本の実践報告（うち1本は英文）を掲載することができました。

内容も、アクティブラーニングの理論や、視覚的教材の意義、地域と英語教育とを組み合わせた新しいコンテンツ授業について、英語科目におけるポートフォリオの応用可能性、語彙サイズテストによるプレイズメントの試みなど、英語教育を論じた論文を5本、さらに英語教育については、ICTを用いたスピーキング学習とはやぶさカレッジについての実践報告も掲載しました。またキャリア教育では、地元就職への取り組みや、学生提案型の地域プロジェクト学修の可能性、共育型地域インターンシップのモデル構築と、3本の論文をご投稿いただきました。さらに、大正期における教養教育の考察、放射線シミュレーションの教育的有効性の論文も掲載しています。教養教育に関する学術誌として、幅広い分野から投稿していただき、充実した創刊号となりました。

今号は、編集委員会の体制作りなど準備に時間を要したため、刊行までのスケジュールがタイトなものとなり、執筆者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。執筆者の皆様は勿論のこと、編集委員各位、査読に協力下さった皆様、編集作業に関わった事務職員の皆様、多くの方々のご協力を得て、刊行に至ることができました。ここに心より御礼申し上げます。

なお来年度以降も、本誌は年一度の刊行を予定しています。今後、一層よりよい雑誌にすべく努力して参りたいと思っております。本誌について、皆様のご批正を賜りましたら幸いです。今後ともどうぞ宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。(渡辺)

『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』第1号

発行人	弘前大学 教育推進機構 教養教育開発実践センター
編集	教養教育開発実践センター編集委員会
連絡先	〒036-8560 青森県弘前市文京町1 学務部教務課教務グループ 教養教育担当 電話：0172-39-3104 E-mail：jm3104@hirosaki-u.ac.jp
発行所	弘前大学出版会 HUP 〒036-8560 青森県弘前市文京町1 電話：0172-39-3168 FAX：0172-39-3171
発行年月日	2017年3月31日 (非売品)
印刷・製本	やまと印刷株式会社

**Journal of
Liberal Arts Development and Practices**

ARTICLES

- | | | |
|---|-------------------|----|
| The Flipped Classroom, Two Classes in One | Shari Joy BERMAN | 1 |
| The Role of Images in ELT Textbooks: A Case for Visual Metaphors | Brian J. BIRDSELL | 9 |
| An Alternative Framework for Teaching Local Studies:
Local Literature as Literature of Place | Joshua SOLOMON | 19 |
| Practical Use of Portfolios in Liberal Arts English Courses:
Applicability to the European Language Portfolio | Natsuko TATSUTA | 31 |
| Trial of Placement Using Vocabulary Size Test | Yuichiro YOKOUCHI | 43 |
| A Comparative Study of Liberal Arts Education in Higher Educational Institutions
in the Taisho Era: The Cases of Three Schools in North Tohoku Region
Katsuya KOGURE, Haruko ISHIHARA, Tsuyoshi MAEDA, Reiko UENO | | 53 |
| Effects of Radiation Simulation for Undergraduate Students
in the Department of Radiological
Hideya MATSUTANI, Satoru MONZEN, Masahiro HOSODA,
Ikuo KASHIWAKURA, Hiroyuki KATO | | 65 |
| Model of Educational Internship in Local Community
Kunpei NISHIMURA, Yusuke KUDO, Syota KODERA | | 71 |
| A Study on Management for Student-led Active Learning
Yusuke HATAKEYAMA, Mizuki AIZU, Kunpei NISHIMURA | | 85 |
| Regional Creation and Local Employment of Students | Shigetaka KOISO | 97 |

PRACTICAL REPORT

- | | | |
|--|---------------|-----|
| In Search of an Ideal Curriculum | Megumi TADA | 109 |
| Practice in English Speaking Class:
Improving Learners' Monitoring Skills Using ICT | Tsuyoshi SATO | 119 |
-